

北海道における次世代施設園芸の展開方向(平成29~31年度)

■現状と課題

・北海道における野菜の計画的で安定的な周年生産を可能とする高度な施設園芸を推進するため、平成23年度から養液栽培等の普及促進や次世代施設園芸拠点の整備支援等に取り組んできた。

・今後、本道を高度な施設園芸の一大産地として確立するためには、周年安定生産技術の確立、従業員の技術向上や労務管理等の施設の効率的運営方法の確立などの施設運営面の課題があることから、これらの課題の解決に向けた取組を進めることにより、次世代施設園芸の地域展開等を促進し、本道施設園芸全体の底上げを図る必要がある。

◇基本的な考え方

国のソフト事業を有効に活用し、北海道拠点で得られた知見等の発信や、拠点を活用した新たな生産システム等の実証、さらには人材の育成などを行うことにより、次世代施設園芸の地域展開を促進するとともに、本道の施設園芸全体に波及させ、高度な施設園芸の一大産地化を目指す。

◇主な取組内容

- ・検討会議等の開催
- ・講習会、フォーラム等の開催
- ・先進事例等の調査
- ・拠点で得られた知見等の発信等
- ・北海道拠点への技術支援

<実施体制>

北海道次世代施設園芸コンソーシアム

北海道

苫東ファーム(株)
(次世代施設園芸拠点)

(株)Jファーム

(取組主体)

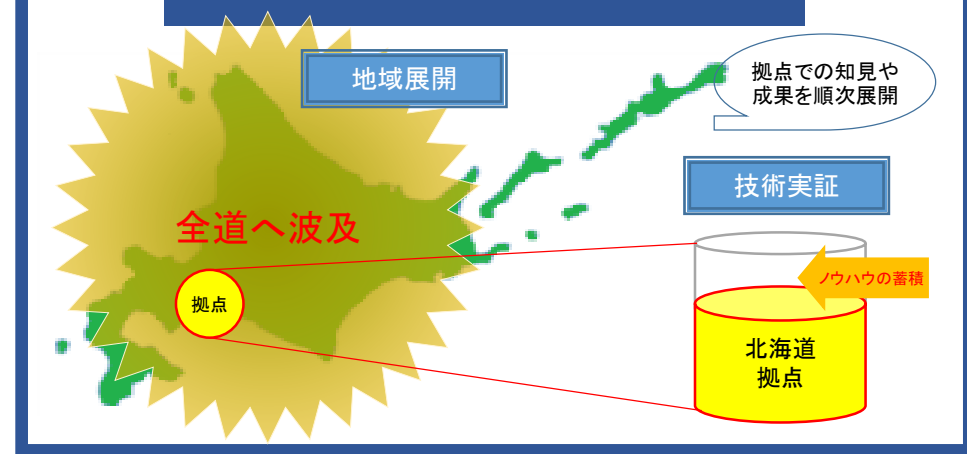
フード特区機構

養液栽培研究会

その他構成団体

北海道拠点の成果やノウハウの普及促進等

次世代施設園芸への発展・加速化



高度な施設園芸の一大産地化

